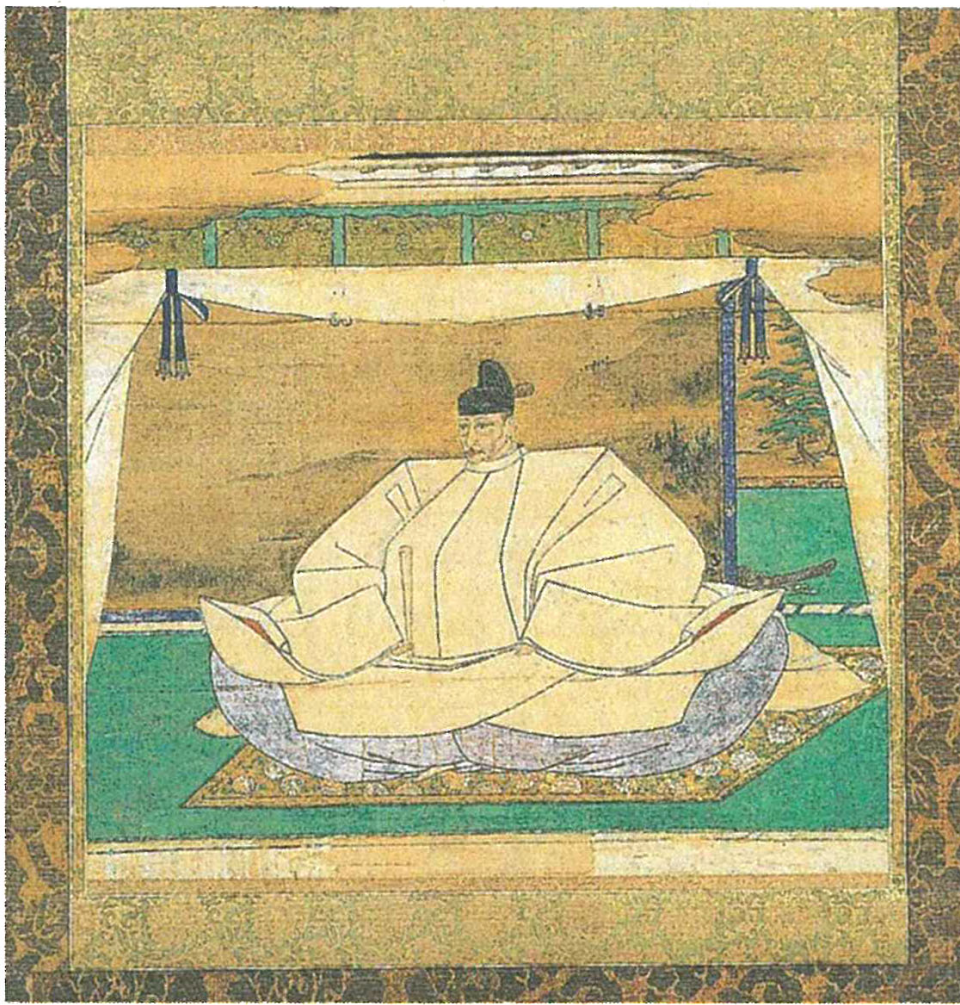


清正公400年遠忌記念

加藤清正と本妙寺の至宝展

②



豊臣秀吉像

著色・掛幅装、77・5×85・8センチ、
桃山時代（16世紀末～17世紀初）

秀吉没後、京都の東る。

山七条に靈廟と彼を冠の金泥による繊細祭るための豊国社が造な描き起こし、背景の営され、「正一位豊国水墨山水や著色の松樹大明神」の尊号が贈らの表現など、細部までれた。実にこまやかな神経が行き届いた作風から、

本図はまさに神殿に祀られ縷網縁の畳に坐す秀吉像であり、正確には「豊国大明神像」と呼ぶべきものであつた作である。（熊本日韓文化交流研究会会長

1598年の秀吉没後、こうした画像は恩顧の者たちの注文により、主に狩野永徳の長男・光信が描いてい

大倉隆二）※同展は15～21日、

熊本市の鶴屋百貨店東館7階ホールで。

こまやかな神経行き届く